

慢性 C 型肝炎の補完医療（第 3 報）

The complementary treatment for chronic hepatitis C

曾根 美好¹⁾, 中島 修²⁾, 黒川 香³⁾, 池田 哲郎⁴⁾,
門田 重利⁵⁾, 信川 高寛⁶⁾

1) 日本赤十字社血液センター, 2) 化学療法研究所附属病院, 3) 東京女子医科大学消化器センター

4) 日本統合医学研究会, 5) 富山医科薬科大学, 6) 長春中医药大学

The 99 patients with chronic hepatitis C were treated with Interferon for 6 months. Then, the patients were divided into 3 groups. Each group was treated with natural medicine for 60 months. The efficacy of each group was dominantly higher than that of control group, other 28 patients.

Six patients from the unaffected patients by the treatment above, were treated with *Taxus yunnanensis* for 12 months. Four patients from six were improved in liver function test, HCV-RNA level and the markers for liver fibrosis level.

【目 的】

昨年までの本学会において、インターフェロン(IFN)療法を受けた 99 症例の慢性 C 型肝炎に対し、3 種類の天然薬物製剤で 5 年間治療した結果を報告した。そのうち奏効した症例は 57 例、無効は 42 例であった。今回は、これらの症例群と肝庇護剤のみで治療した群との成績を比較して報告する。また、無効例に対しては *Taxus yunnanensis* (TY)を用いた結果も合わせて報告する。

【方法および結果】

慢性 C 型肝炎 99 例を 3 群に無作為に分け、小柴胡湯(EK-9)、スクワレン(SQ)、セファランチン(CE)をそれぞれ 5 年間経口投与した。対照群として、肝庇護剤のみ（主にグリチルリチン酸とウルソデオキシコール酸の併用）で同一期間治療した 28 症例の経過を観察した。対照群では肝機能値、HCV-RNA 値、肝線維化マーカーのいずれもが増悪し、4 例が肝硬変症に移行、2 例に肝癌が発症した。一方、漢方薬や天然物質を用いて治療した群では 1 症例のみが肝硬変症に移行したが、肝癌の発症は認められなかった。TY は中国雲南省の高山に自生する常緑樹で、その材部の主成分はリグナン類である。種々の薬理作用を有するが、ガラクトサミン誘発肝障害ラットの肝機能を改善するとの報告がある。この TY 製剤を 6 症例に投与した結果、良好な成績が得られたのでその作用機序とともに報告する。

【考察および結論】

C 型肝炎ウィルスのゲノムの変異が IFN 療法の治療成績に影響するといわれている。そこで、IFN 療法後に種々の漢方薬や天然物質を用いて治療成績の向上を計って来た。TY の作用機序は TNF- α の産生抑制とアポトーシス抑制作用と考えられ、従来の 3 製剤の IFN 誘起作用とは異なり、有用な治療薬となり得るとかんがえられる。